ティーチング・ステートメント

所属　北海道科学大学保健医療学部看護学科
名前　宮田　久美子
作成日　2023 年 3 月 22 日

【責任】

4 年制大学の看護学科教員として「地域・在宅看護学」に関連する５つの科目（講義・演習・実習）を担当している。そのほか学年担任、およびゼミ学生に対する学修（研究指導）・生活・進路支援を行っている。また、学科の「卒業研究」、「国家試験対策」について、内容の決定、対策の実施、評価における主たる役割を担っている。

【理念】

教育における理念は、「“他者の目標とされるひと”を育成する」ことである。“他者の目標とされるひと”とは、①自身の専門領域にとどまらない広い知識と経験的に獲得した知識や技術を統合することによって、広い視野で様々な状況に適切に対応できるひと、②他者やコミュニティの人々と協力・協働できるひとである。この根拠は、地域・在宅看護が日本の超高齢社会を背景として地域住民の健康を守るために重要な役割を持っていることにあり、地域での看護をけん引する人材の育成・普及、さらに継続的に社会の課題を見通し柔軟に対応する看護を探求する人材が求められているためである。そのため、大学教育においては基礎的な学力の育成に加え、起きている現象について「何が起きているのか、それはなぜか」を探求する研究的思考を養うことが有用であると考える。

またそのロールモデルとして、教員が広い知識を持ち、さらに学生の意見を尊重する姿を示すことを教育姿勢としている。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、以下の方針で教育を実施している。

方針１：専門職に必要な基礎的な知識を獲得し、実践的な状況に対応して応用的に使用する

方法１）専門職の基礎的知識に関する授業方法

- シラバス内に授業内容に対応した予習・復習内容を提示している。さらに、講義で教授した知識を固定・発展するよう、授業冒頭では前回の授業に対応した国家試験問題（特に事例を踏まえた状況設定問題）を小テストとして示すことがある。
- 授業内では実際の看護師の活動に関する動画を使用している。５分未満の動画は授業内容を補足するものとして使用している。10 分を超えるような動画は特に看護の対象者や看護の実際の場面を教材として、その講義の目的に沿ったテーマで複数の人数で意見交換をし、レポートや発表により応用的な思考を整理している。レポートの内容は、後の授業で教員が意見をまとめて提示したり、コメントを提示している。
- 授業および実習で、看護職に限らず関係職種の役割について示し、さらにそれらの職種の講義やコミュニケーションを通して役割の実際を学ぶ機会を設けている。

方法２）専門職の実践的状況に関する授業方法

- 実習では、看護の対象事例の解釈にどのような知識を用いどのように統合したのかを書面で整理させ、その妥当性を確認・指導している。また実習の場所や対象を提供してくださる実習施設にも学生のレディネスと体験させてほしい事例について示している。実習中は、学生の理解に合わせ臨床の看護師と協働して指導している。
- 数人の臨床看護師を講師とした授業を取り入れており、基礎教育での学びがどのように活用されるのか、さらに臨床で活躍するために不足していることは何かをレポートでまとめて提出させいる。

- 授業の一つとしての演習では、地域の療養者に対する訪問看護の実際を演じるロールプレイを取り入れている。提示した事例に対する看護を計画し、実際の援助を演じる内容である。対象は学生が演じることもあれば教員が演じることもあり、教員が演じた際には学生が想定していない状況を演じることを意図的に行っている。そのことによって状況に応じた対応力を身に着けることをねらっている。

方針２：他者に共感する姿勢を養い、協力・協働する

- 授業内では紙上事例に対する看護のグループワーク→発表→意見交換の場を多用している。グループワークは円滑に行えるための各自の準備を課している。そのことで限られた時間内で効率よく自分の考えを伝えたり、他者の意見を聞けている。また、それらをグループワークで統合する際には、同じ意見を確認すること、違う意見の背景を話し合うこととさせている。グループワークの内容は口頭や資料を用いた発表、またはロールプレイを行い、さらに多くの他者からの意見を聞き、意見を肯定的に検討するようにしている。
- 実習では、複数人で一人の患者を担当し、互いに得た情報や分析した内容をまとめ、最終的に協働して対象者に一つのケアを実施する機会を作っている。

方針 ３：専門職のロールモデルとしての自身を律する

- 授業は、各講義で目的と目標を明確に示している。
- 講義時間は厳守している。
- 先駆的な知識や技術を得るため、定期的に講習や研究会に参加している。また、臨床研究を通して、技術を実践する機会を作っている。
- 担当領域に関する研究を継続的に行っている。

【評価・成果】

- 授業評価アンケートでは、学生の回答の満足度が８割である。
- 国家試験は常に全国平均を超える合格率を維持している。
- 演習や実習後のレポートで地域・在宅看護領域で将来的に活動したいという学生が年 10 名程いる。
- 複数の大学からの実習を受け入れている実習施設から、本学生が情報を統合する力が優れていることやわからないことを表現する力があることの感想が得られている。
- 卒業生が臨床における研究リーダーとして活躍し、研究に関心を持ち続けている。

【目標】

- 学生の授業アンケートで７割の学生が満足であると回答する（2025 年）。
- 卒業時に地域・在宅看護関連の場で活躍したい希望が確認できる（2025 年）。
- 国家試験合格率が 100%となる。